

日本地域学会ニューズレター

平成 22 年 no.2

平成 22 年 8 月 10 日

目 次

I.	日本地域学会第 47 回年次大会 (平成 22 年 10 月 9 日-11 日) 参加登録について	... 2
II.	平成 22 年度日本地域学会総会 (平成 22 年 10 月 10 日) 出席のお願い	... 2
III.	理事会報告 平成 22 年度 第 1 回～第 5 回理事会	... 3
IV.	委員会報告 1. 学会賞選考委員会報告 日本地域学会学会賞授賞者の決定 2. 機関誌編集委員会報告 機関誌編集委員会 第 28 回～第 29 回の報告	... 4
V.	会員通信 <研究室便り>新潟大学・木南莉莉研究室 (新潟大学・古澤研究員) <海外滞在記>シャーロットでの一年間をふり返って (福岡大学・梶井准教授)	... 5
	第 47 回年次大会準備委員会からのお知らせ 第 47 回年次大会の会場案内	... 9

I. 日本地域学会第47回年次大会 (平成22年10月9日-11日)

平成22年度(2010年度)日本地域学会第47回年次大会を下記要領で開催いたします。積極的にご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

開催日: 2010年10月9日(土)-11日(月)

開催校: 政策研究大学院大学

会場: 政策研究大学院大学(会場案内は別掲)

〒106-8677 港区六本木7-22-1

大会準備委員長: 福井 秀夫(政策研究大学院大学教授)

〃 副委員長: 梶原 文男(政策研究大学院大学教授)

Tel: 03-6439-6204(ダイヤルイン)

Fax: 03-6439-6010

E-mail: fkajiwara@grips.ac.jp

(メールの件名は「日本地域学会年次大会問合せ」と明記して下さい)

主要プログラム: 学術セッション, 総会および学会賞授与式, 公開シンポジウム「自治体独自の立法権, 課税件, 司法権をどこまで認めるか-地方分権の原理的考察-」, 懇親会

参加費:	一般会員	5,000円
	非会員	10,000円
(公開シンポジウムのみの参加は無料)		
懇親会費(参加者のみ):	一般会員・非会員	5,000円

申込み方法: 同封の返信用ハガキでお申し込み下さい。座長, 発表者, 討論者を含め全ての参加者に申込みが必要です。なお, 総会(10日13:15~)を欠席される場合は, 委任状欄の記入もお願い致します。

注意事項:

1. 最新のプログラムは以下の日本地域学会HP(以下, 学会HP)にて公表する予定です。

http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/index_jap.html

2. 発表予定稿が提出されたものについては, 学会HPから事前にダウンロードできるようにする予定です。

3. 大会準備委員会としてホテルの手配はしていません。各自でご予約いただきますようお願い致します。

4. 期間中の昼食は大学周辺の飲食店をご利用下さい。

以上

II. 平成22年度日本地域学会総会 (平成22年10月10日)

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会
会長 多和田 眞

本年度総会を下記要領で開催致しますのでご出席下さい。なお, 欠席される場合には同封のハガキにて委任状をご提出下さい。

記

日時: 平成22年10月10日(日)13:15-14:30

場所: 政策研究大学院大学L講義室

総会次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 来賓挨拶(RSAI元会長 Prof. David Boyce)
4. 議題
 - 1) 新入会員・退会希望者の承認
 - 2) 平成21年度の事業報告の承認
 - 3) 平成21年度の収支決算の承認
 - 4) 平成23年度の事業計画の承認
 - 5) 平成23年度の収支予算の承認
 - 6) 平成22年度の収支予算(修正案)の承認
 - 7) 名誉会員の承認
 - 8) 第48回(2011年)年次大会の開催地, 開催校等の承認
 - 9) 第49回(2012年)年次大会の開催地, 開催校等の取扱いの承認
 - 10) その他
5. 報告
 - 1) 新入会員キャンペーンの継続
 - 2) 『地域学研究(40巻)』の編集
 - 3) RSAIの動向
 - 4) PRSCOの動向
 - 5) その他
6. 学会賞授与式
 - 1) 選考経過報告
 - 2) 学会賞授与(受賞者はIV.委員会報告に別掲)
 - 3) 受賞者挨拶
7. その他
8. 閉会の辞

以上

III. 理事会報告

平成 22 年次 第 1 回理事会 (持回り)

日時: 平成 22 年 1 月 12 日 (火) 17:00

議題: 「田島一成環境副大臣を囲んだ講演会と鼎談」の共催の件

テーマ: 持続可能社会を目指した新たな環境政策と環境研究 (Environmental Policy Decision and Research toward Sustainable Future Society)

(社) 環境科学会 藤江幸一理事より標記の依頼があり、これを承諾する件につき審議に付し、承認が得られた。

平成 22 年次 第 2 回理事会 (持回り)

日時: 平成 22 年 1 月 22 日 (金) 17:00

議題: COP10 パートナシップ事業 -コラージュ&フォーラム- 「環境流域圏を基にこの国の形を創る ~第 2 回道州制のあり方を流域から考える~」の後援名義使用の件

上記後援名義使用を許可する件につき審議に付し、承認が得られた。

平成 22 年度 第 3 回理事会

日時: 平成 22 年 4 月 25 日 (日) 13:00-15:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 細江, 加賀屋, 水鉤, 渋澤, 白井, 木南, 河野, 酒井, 高橋, 萩原, 福井, 藤岡, 松本, 光多, 三橋, 三友, 宮城の各理事 (ただし, 有吉, 浅見, 岡村, 近藤, 斉藤, 原の各理事より委任状付託); 内田, 木南章, 小林, 水野谷, 櫻井の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

水鉤総務担当常任理事より前回理事会以降, 申し込みのあった 14 名の正会員 (個人会員) の入会と 19 名の正会員と 4 団体の法人会員の退会希望を審議し, 次回総会に諮る事を諒承。

2. 平成 21 年度決算 (案) の審議と承認

水鉤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

3. 平成 22 年度予算 (修正案) の審議と承認

水鉤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

4. 平成 23 年度予算 (案) の審議と承認

水鉤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

5. 平成 21 年度事業報告

水鉤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

6. 平成 23 年度事業計画

水鉤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

7. 第 48 回年次大会の開催地及び開催機関

水鉤総務担当常任理事より西日本で候補を選定中であることが報告され, 今後の取り扱いについては事務局に一任することを諒承。

8. 学会賞論説賞の規程

酒井学会賞選考委員長より論説賞の規程について説明があり, 審議の後, 次回総会に諮ることを諒承。

9. 『地域学研究』セット販売の推進

これに関して水鉤総務担当常任理事よりセット販売の推進について説明があり, これを諒承。

10. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

これに関して水鉤総務担当常任理事より, 新入会員勧誘について説明があり, これを諒承。

11. その他

報告事項

1. 機関誌編集委員会報告

多和田機関誌編集委員長より『地域学研究』第 40 巻の掲載候補論文の選考結果と印刷状況について報告が行われた。

2. 理事会報告

1) 平成 22 年次 第 1 回理事会 (持回り)

水鉤総務担当常任理事より環境科学会主催の「田島一成環境副大臣を囲んだ講演会と鼎談」の共催名義使用の件について説明があり, これを諒承したことが報告された。

2) 平成 22 年次 第 2 回理事会 (持回り)

水鉤総務担当常任理事より COP10 パートナシップ事業 -コラージュ&フォーラム- 「環境流域圏を基にこの国の形を創る ~第 2 回道州制のあり方を流域から考える~」の後援名義使用の件について説明があり, これを諒承したことが報告された。

3. RSAI の動向

4. PRSCO の動向

5. その他

平成 22 年度 第 4 回理事会

日時: 平成 22 年 7 月 4 日 (日) 13:00-15:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 加賀屋, 水鉤, 細江, 渋澤, 白井, 河野, 斎藤, 酒井, 戸田, 中山, 藤岡, 光多, 宮田の各理事 (ただし, 有吉, 近藤, 高橋, 萩原, 原, 松本, 三橋, 三友の各理事より委任状付託); 梶原大会準備委員会副委員長, 鐘ヶ江学術委員会副委員長, 内田, 小林, 水野谷の各幹事; 坂田事務局秘書

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

水鉤総務担当常任理事より前回理事会以降, 申し込みのあった 18 名の正会員 (個人会員) の入会と 3 名の正会員の退会希望を審議し, 次回総会に諮る事を諒承。

2. 第 47 回年次大会並行セッション及びシンポジウムのプログラム編成

梶原文男大会準備委員会副委員長よりプログラム編成について説明があり, 今後のプログラム編成については事務局に一任することを諒承。

3. 第 48 回年次大会の開催地及び開催機関

水鉤総務担当常任理事より和歌山大学での開催を調整中であることが報告され, 今後の取り扱いについては引き続き事務局に一任することを諒承。

4. 平成 23・24 年期理事選挙の件

水鉤総務担当常任理事より理事候補者名簿について説明があり, これを諒承。

5. 第 19 回学会賞選考委員会の件

酒井学会賞選考委員長より選考結果について報告があり, これを諒承。

6. 平成 22 年度会費未納者の措置

水鉤総務担当常任理事より会費未納者の改善を図りたいとの説明があり, 督促については事務局に一任することを諒承。

7. 『地域学研究』セット販売の推進

水鉤総務担当常任理事よりセット販売の推進について説明があり, これを諒承。

8. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

水鉤総務担当常任理事より, 新入会員勧誘について説

明があり, これを諒承。

9. その他

水鉤総務担当常任理事より日本経済学会連合国際会議派遣補助申請の近年の採択状況について説明があり, 申請者の推薦規準を改善する提案がされ, 今後の取り扱いについては事務局に一任することを諒承。

報告事項

1. 機関誌編集委員会報告

多和田機関誌編集委員長より『地域学研究』第 40 巻の掲載候補論文の選考結果と印刷状況について説明があり, これを諒承。

2. RSAI の動向

3. PRSCO の動向

4. その他

平成 22 年度 第 5 回理事会 (持回り)

日時: 平成 22 年 7 月 20 日 (火) 17:00

議題: 日本学術会議地域研究委員会人文・経済地理と地域教育分科会主催のシンポジウム「地域アイデンティティの再構築—地域再生と地域主権への地理学からの接近—」の後援名義使用の件

上記後援名義使用を許可する件につき審議に付し, 承認が得られた。

IV. 委員会報告

1. 学会賞選考委員会

学会賞選考委員会 (委員長 酒井泰弘 滋賀大学 教授) では, 慎重な審議の上, 下記の会員の方々に平成 22 年度 (第 19 回) 日本地域学会学会賞を授与する事を決定しましたので報告致します。なお, 授与式は先にご案内致しました今年度総会で執り行われます。

功績賞:

該当者なし

論文賞:

萩原 清子 (佛教大学社会学部公共政策学科 教授)

主題: 中国都市域の水辺整備の概念と実際—北京市を中心として—

渋澤 博幸 (豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 准教授)

主題: 社会的便益の評価手法に関する研究—技術的

伝播拡散の外部性を考慮した一般均衡モデルを用いて-

奨励賞:

金 湛 (南九州短期大学国際教養学科 准教授)

主題: 中国内モンゴル自治区における経済急成長と失業問題の産業的要因に関する考察

著作賞:

林 良嗣 (名古屋大学大学院環境学研究科 教授) 他編著

『都市のクオリティ・ストック』

酒井 泰弘 (滋賀大学経済学部 特任教授) 著

『リスクの経済思想』

学位論文賞:

田中啓一賞 (博士論文賞)

沈 志宏 (筑波大学大学院生命環境科学研究科 特別研究員)

主題: 持続可能な太湖経済圏実現のための環境政策の総合的評価 (筑波大学提出 平成 22 年 1 月 31 日, 博士 (学術))

呂 佳 (杭州師範大学政治経済学院) 専任講師)

主題: Market and Supplier Access, Spatial Dependence and Location Choices of Japanese Food Industry FDI in East Asia (筑波大学提出 平成 21 年 11 月 30 日, 博士 (学術))

熊田禎宣賞 (修士論文賞)

李 楊 (筑波大学大学院生命環境科学研究科博士課程)

主題: 中国における電子廃棄物の適正処理と資源再生に関する研究 (筑波大学提出 平成 22 年 3 月 25 日, 修士 (環境科学))

2. 機関誌編集委員会

第 28 回 機関誌編集委員会

日時: 平成 22 年 4 月 25 日 (日) 11:00-12:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 松本, 氷鮑, 加賀屋, 木谷, 木南, 実積, 洪澤, 高橋, 藤岡, 光多, 三友, 福井の各編集委員 (ただし有吉, 斉藤, 原の各委員より委任状付託), 内田, 木南章, 小林, 水野谷, 櫻井の各幹事, 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第 40 巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価に基づき第 40 巻の掲載論文および掲載候補論文の選考が行われた。

2) 同上機関誌印刷方針

第 40 巻の発行計画および印刷状況について, 坂田事務局秘書より報告があった。

3) 同上機関誌書評応募図書 of 取扱い

4) その他

第 29 回機関誌編集委員会

日時: 平成 22 年 7 月 4 日 (日) 11:00-12:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 氷鮑, 加賀屋, 斎藤, 洪澤, 藤岡, 光多, 戸田の各編集委員 (ただし松本, 有吉, 木谷, 実積, 高橋, 原, 三友の各委員より委任状付託), 内田, 小林, 水野谷の各幹事, 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第 40 巻掲載候補論文の選考

レフェリー評価に基づき第 40 巻の掲載論文および掲載候補論文の選考が行われた。

2) 同上機関誌印刷方針

第 40 巻の発行計画および印刷状況について, 坂田事務局秘書より報告があった。

3) 同上機関誌書評欄応募図書 of 取扱い

4) その他

V. 会員通信

<研究室便り> 新潟大学自然科学系 (農学部) 木南莉莉研究室の紹介

新潟大学 (大学院自然科学研究科/超域研究機構)

研究員 古澤 慎一

新潟大学は 9 学部 7 大学院研究科で構成されている。当研究室は, 農学部農業生産科学科の食料・資源経済学コース (主専攻プログラム), 大学院自然科学研究科生命・食料科学専攻の生物資源科学コースに属している。食料・資源経済学 of 主専攻プログラムは, 農学と経済学, 地域学, 環境学などを網羅する複合領域のものであり, 学生は農業・農村, 食料・資源, 地域・環境に関わる社会経済的な問題について国際的な視点から学習を深めることができる。

当研究室の主たる研究領域は、農業経済学と地域研究を基礎として、国際フードシステム論、農村開発論、環境経済学、地域計画論などであり、ここ数年は、木南教授が国際フードシステム論や農村開発論の著書を出版するなど、これまでの研究成果をまとめる機会も多くなっている。環境経済学や地域計画論における研究は、近年、本格的に進めてきた分野である。対象地域は、主に日本と中国などの東アジアを中心としてアジアを対象としている。研究の対象地域も、ローカルからナショナル、リージョナル・レベルへと様々なスケールをカバーしている。

地域学会関連の雑誌に掲載された論文・著書との関連で研究成果をまとめると以下の通りである。

(1) 国際フードシステム論

主たる対象地域は、アジア地域であり、アジア国際産業関連表を用いて新しい貿易指標を開発し、国際分業の類型化手法を提案した。また、経済成長に伴う食料消費構造の変化と食料政策について、中国やアジア地域を対象として、都市家計調査の統計分析、富裕層や貧困層へのインタビュー調査、アンケート調査等を通じて分析を行った。また、大学での講義資料を元に教科書のとりまとめを行い、食料をめぐる問題をグローバリゼーションの進展下のフードシステムのダイナミックな変化として捉える「国際フードシステム論」を提唱した。研究成果は、『地域学研究』の第28巻第1号(1998)、第33巻1号(2003)、第38巻第4号(2009)、『Papers in Regional Science』の第78巻第3号(1999)、単著書として『国際フードシステム論(農林統計出版)』(2009)などにおいて発表している。

(2) 農村開発論

中国を中心としてインドや日本などとの国際比較を視野に入れつつ、開発経済学を理論的基礎とした貧困問題、ジェンダー問題、農地制度問題などの研究を行ってきた。近年では、地域開発研究への寄与を念頭に、中国を対象としてクラスター戦略による農業・農村開発の有効性と課題の分析を行った。研究成果は、単著書として『中国におけるクラスター戦略による農業農村開発(農林統計出版)』(2010)、書評として『The Annals of Regional Science』の第41巻第2号(2007)、『地域学研究』の第38巻第2号(2008)などにおいて発表している。

(3) 環境経済学

日本の畜産公害における紛争処理、ラムサール条約登

録湿地である佐潟(新潟市)の環境保全計画、東京都や上海市における都市農業、新潟県における農村共有資源の管理などを事例として、地域資源と環境保全政策の理論的・実証的研究を行った。都市農業を対象とした研究では、農業部門を導入した都市経済の分析枠組みを提案し、住民へのアンケート調査の計量分析を通じて、都市農業の持続可能性について考察を行った。また、農村共有資源の管理の分析では、農業集落データの計量分析などを通じてコミュニティによる地域資源管理のメカニズムについての分析を行った。研究成果は、第29巻第3号(1999)、第34巻第1号(2004)、第36巻第2号、同3号(2006)、第37巻第2号(2007)、第39巻第4号、第40巻第1号(2010)などにおいて発表している。

(4) 地域計画論

公共施設の配置計画について理論・実証的研究の体系化を行った。また、パネルデータ分析手法を用いて土地改良事業の経済効果の分析を行った。さらに、都市と農村を一体とした地域計画を視野に入れ、農村計画や都市計画を対象として、実践的な計画立案の基礎となる住民の意識構造モデルの構築を行った。研究成果は、第35巻第2号(2005)、第36巻第4号(2007)、第37巻第4号(2008)、第39巻第3号(2009)などにおいて発表している。また、Kenneth Button教授(George Mason University)やPeter Nijkamp教授(Free University)との共編著書として『Public Facilities Planning(Edward Elgar Publishing)』(2006)などを発表している。

木南教授が代表者として進めている研究プロジェクトとしては、国際食料産業クラスター戦略による食料安全保障と持続可能な農業開発へのアプローチ(科研)、ステークホルダーの参加によるトキの生息地保全と持続可能な地域環境資源の管理(学内)などがある。また、2010年7月からは木南教授がフランス・ナント市の国立農学研究所(INRA)に研究滞在する機会を得て、国際共同研究を進めている。フランス・ナント市とは新潟大学が位置する新潟市が国際交流を進めており、2010年3月にも新潟大学にEmmanuelle Chevassus-Lozza博士を招へいし、研究セミナーや研究室のメンバーとの交流を図ったところである。

国際的な学術交流としては、日本地域学会との関連では、ほぼ毎年研究室のメンバーがPRSCO大会に参加している。この他にも、学会を通じて知り合ったEwa Bojar教

授 (Lublin University of Technology) や Roger Stough 教授 (George Mason University) を新潟市で開催された国際会議に招へいし、交流を図ったこともある。

現在、当研究室には学部生 1 名、大学院博士前期課程 4 名、博士後期課程 1 名、博士研究員 1 名が在籍している。また、外国人留学生は、これまでに博士後期課程 2 名、前期課程 4 名が在籍した。現在は、外国人留学生は在籍していないものの、入学を希望する学生が数名いる。研究室のメンバーは、学部から内部進学する者以外に、他大学や他学部から入学する者もあり、研究テーマの選択も比較的自由度が高く、幅広い分野をカバーしているように思う。学生が用いる方法論としては、計量経済学的な分析手法というよりも、ヒアリング調査やアンケート調査結果の分析を中心とした事例分析が主流となっている。なかでも何とかかなりそうだからという理由で、安易にアンケート調査を選択する学生には、木南教授が「アンケート調査は art(芸術) であり、基礎が相当しっかりしていないと難しい。」という言葉が述べられているのが特に印象に残っている。また、大学院のゼミなどでは、「開発経済学」をテーマに教科書の輪読を行っており、日本を対象に研究している学生にとっても視野を広げる良い機会になっていると思う。

私事になりますが、私は 2003 年 4 月より当研究室に在籍し、木南教授のご指導の下で、修士学位と博士学位を取得いたしました。また、大学院博士前期課程 2 年の 2005 年に日本地域学会に加入し、年次大会での論文報告などの数多くの機会に恵まれました。そして、学会での論文報告の際やレフェリーの方からの論文査読コメントなど有益な助言を頂いてきました。さらに、それら以外にも、機会のある度に学会の諸先生および先輩方より学生・研究者として成長していくための御助言を頂戴いたしました。指導教官からのご助言を含めて、私自身それらを十分に生かし切れていないと感じていますが、今後精一杯取り組む中で、諸先生・諸先輩方への恩返しとさせて頂く所存です。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

最後にですが、私自身は開発経済学という学問に興味を持ち、木南教授の「学生と共に成長していきたい。」という言葉に惹かれ、この研究室に在籍する意志を固めました。研究室の後輩には、日本地域学会での論文発表など学会活動への参加を通じて、様々な機会を得て、自己の

成長につなげていくことを心より祈念いたします。また、私自身も今後は、少しでもそのような場面に携わり、共に成長して参りたいと存じます。

(了)

<海外滞在記> シャーロットでの一年間をふり返って

福岡大学経済学部
准教授 梶井 昌邦

2008 年 8 月より 2009 年 8 月までの 1 年間、アメリカのノースカロライナ大学シャーロット校 (The University of North Carolina at Charlotte, UNC Charlotte) に在外研究で滞在しました。出発前夜の夜中に慌てて荷物をパッキングし、トランク 2 つをもって寝惚け眼で朝の福岡空港に到着したことからスタートしたアメリカでの生活でしたが、新しい多くの友人を得、異なった生活習慣や文化、そして様々な考え方を学ぶことが出来た素晴らしい 1 年間でした。

シャーロットは、人口約 70 万、都市圏人口は約 170 万人の、アメリカの中では比較的大きな都市であり、アメリカでは、Bank of America や (2008 年に Wells Fargo に買収された) Wachovia にゆかりがある金融都市として有名です。このような情報や出発前に日本在住のアメリカ人の友人から “pretty big city” と聞いていたことから、ビジネスマンが忙しく歩き回るような、都会の雰囲気にあふれた街での生活を思い描いていましたが、実際は、たくさんのリスが走り回り、美しい木々や草花に囲まれた、自然に溢れる環境での生活を満喫することとなりました。キャンパスでは、見知らぬ人でも大きな声で “Hi” や “How’s it going?” と声を掛け合うことや、ビルのエントランスで先に入った人が、後ろから来る人のために、ドアを手でもって開けておくといった習慣が浸透しており、温かな雰囲気の大学でした。このようなことについて「アメリカはいい雰囲気をもってるな」と友人の若きエンジニアの卵の Mike に伝えると、「Masa それは、アメリカ南部の独特の文化で Southern Hospitality っていう言葉もあるんだぜ」と南部なまりの強い英語で得意げに教えてくれたことを鮮明に思い出します。

ノースカロライナ大学で、私を受け入れてくださったのは、地理・地球科学科 (Department of Geography and Earth Sciences) の Jean-Claude Thill 教授です。Thill 先生は、北米地域学会 (North American Regional Science

Council (NARSC)) の Executive Director をされており、ご存知の方も多いと思いますが、地理学者であるとともに、地域科学者であり、地理情報システム (Geographic Information System) や空間解析、交通システムそして移動システム等、幅広い研究関心をお持ちの研究者です。また、温厚で紳士的なお人柄で多くの同僚の先生や学生に慕われていました。私は、データマイニング手法の応用による都市空間や都市商業政策の評価を研究テーマに、Thill 先生に共同研究をもちかけました。Thill 教授とは、数多くの議論の機会をもちましたが、論理的な議論を好む先生で、どの議論も密度の濃い生産的なものでした。時折、意見がぶつかる時もありましたが、そのときは私の話を注意深く聞き、「なるほど」や「それは少し違うのでは？」といったコメントを何故そう考えるかの理由とともに頂きました。大学では、個室の研究室を用意して頂きましたが、Thill 先生は忙しい合間をぬって声を掛けに来てくださり、研究以外にも生活のことなど、多くのことに相談に乗っていただきました。

Jean-Claude Thill 教授の研究室の大学院生とともに
(左から 2 番目が Thill 教授, 3 番目が筆者)

Thill 先生との共同研究はコロンビアの Cartagena de Indias で開催された、First Conference of the Regional Science Association of the Americas (RSAmericas) やテキサス州サンアントニオで行われた 48th SRSA (Southern Regional Science Association) Annual Meeting で発表しましたが、そこでは、多数の質問や意見を頂き、大変有意義な発表となりました。会場は、討論者や議長をはじめ、発表者の研究をよりよいものにするためにはどうすればよいかを考えていこうといった雰囲気満ちて

おり、素晴らしい学会であると感じました。会場には、経済学や工学、地理学等様々な背景を持つ研究者が集まっていましたが、そこで出された建設的な多くのコメントの根底に、他者の研究分野や考え方に対する理解や尊重を強く感じました。また、アメリカに到着して間もないころに開催されたため、残念ながら発表はしませんでした。が、ニューヨーク市で開催された North American Regional Science Council (NARSC) にも参加しました。空間計量経済学の 20 年や空間統計学の 20 年といったセッションに多くのオーディエンスが集まっていたこと、都市研究に関する複数の雑誌のエディターによる、雑誌のレビュープロセスの紹介や投稿者に対するアドバイスのセッションが特に印象に残っています。これらの学会への参加や発表をとおり、多くの研究者と知り合い、さまざまな考え方や先端の研究に接することが出来たことは、筆者にとって大いに刺激になりました。

研究以外にも、2008 年の大統領選挙の前日に UNC Charlotte で聞いた、Obama 大統領候補 (現大統領) の演説、サウスカロライナのチャールストンやジョージア州のサヴァナ (サバンナ) の素晴らしい街並み、グランドフォーザーマウンテンの壮大な自然、ニューヨークのメトロポリタン美術館で観た一流の美術品の数々等、数多くの思い出が詰まった滞在となりました。しかし、なんとといっても、今回の滞在で得た一番の財産は、大学や私が住んでいたオンキャンパスアパートメントの Hunt Village で得た多くの友人や学会で知り合った研究者たちです。Host Professor の Jean-Claude をはじめそのご家族、ご自宅のパーティーに招いていただいた地理・地球科学科の元学科長の Jerry や新進気鋭の地理学者の Eric 等の学部の方皆さん、不慣れなアメリカの生活で困ったときにいつも笑顔でサポートしてくれた親友の Christine や Timmy, Hunt Village で毎日のように政治や経済をはじめ文化など様々な議論を楽しんだ Hugh や Dan, ルームメートの Chek Sing, Arman, Steve, Benjamin 等々 (ここでは、アメリカで呼んでいた First Name を記載しています)、素晴らしい人々に囲まれて過ごすことが出来たことは、私にとって幸せでした。全ての方々の名前を挙げられないのは残念ですが、彼ら/彼女らの温かさと友情に対しこの場をかりて感謝の意を示したいと思います。

(了)